今春転退任する教職員からのメッセージ

湯浅　道行（事務長）

事務長の湯浅です。昭和５３年に平田高校を卒業してから､３８年後に平田高校で仕事をすることになるとは思ってもいませんでした。

初年度は平田高校１００周年記念事業に携わり､また、今年は平田高校が発のセンバツ甲子園に選ばれるなど、いろいろな経験をさせていただきました。

毎日、明るい生徒の皆さんの声に元気をもらっていた気がします。

４年間本当にありがとうございました。

江川　数司（教頭、地歴公民科）

１年という短い勤務でした。しかし、数々の部活動が全国大会出場、文科省事業で地域と協働、春の甲子園にセンバツ…と平田高校は華々しい活躍で元気をもらった１年でした。

　私からもみなさんにも元気が出る言葉を贈ります。「自分を試練にかけよう。人知れず、自分しか証人のいない試練に。たとえば、誰の目のないところで正直に生きる。たとえば、自分自身に対してさえ、一片の嘘もつかない。そして多くの試練に打ち勝ったとき、自分で自分を見直し、自分が気高い存在であることがわかったとき、人は本物の自尊心を持つことができる。このことは、強力な自信を与えてくれる。」

100年前に生きたニーチェの言葉です。みなさんの健闘を祈ります。

毛利　徹生（国語科）

９年間、平田高校に在籍し、たくさんの人との出会いを通し、様々な経験をさせていただきました。ありがとうございます。最後に保健室にいて、様々に思いを巡らせていることを、ほんの少しお話しして、お別れの挨拶にします。

誰かに褒められたい、認められたい、という欲求に際限はありませんし、そのことに固執すると、本当の自分の思いがどこにあるのか分からなくなります。大事なのは、自分を生きること。自分で考え、たくさんの選択肢から自分自身で生き方を決定していくことです。時には、誰かに話を聞いてもらうのもいいでしょう。学校は、そんな誰かとの出会いの場でもありますね。他者に上手く寄りかかりながら、気負いなく、元気に頑張ってください。

福間　新（数学科）

優しい生徒の皆さんから日々元気をもらい過ごすことができました。広報委員会をはじめ、ＰＴＡの活動においては多くの保護者の方にご協力いただき感謝しております。７年間大変お世話になりありがとうございました。平田高校の益々の発展をお祈りしてお別れの言葉とします。

片岡　初美（数学科）

初任で６年間、再び希望がかなってこの７年間、計１３年間もお世話になりました。平田高校はとても居心地がよく、あっという間でした。特に再着任した時は、医療事故から復帰したばかり、杖と鉄板入りコルセットで１時間の授業をするのがやっとの状態から、皆さんの温かさに支えられて感謝感謝…の毎日でここまできました。生きててなんぼ。当たり前の今は、明日にはわからない。だったら汚点は解消して、『気づき・考え・実行する』、特に『気づく』、いい言葉です！ 平田地域はそんな『気づき』ができる人で満ちていますね。平田に誇りをもって、『気づき』→『考え・実行する』をいい面にも要改善の面にも繰り返してください。応援しています！

船木　伸一（数学科）

私が平田高校にいた６年間で、学校も地域も大きく変わりました。お手伝いをさせてもらった名古屋研修旅行、Classi、地域協働事業に対して、皆さんが積極的に取り組んでくれたことにより、学校や地域が大いに活気づきました。この勢いを継続するためにも、今の活動はもちろんのこと、卒業後も平田高校に関わり続けて欲しいと願っています。平田プラタナスプランの完成形を創り上げるのは、他でもない、大人になった皆さんです！

若槻　直輝（保健体育科）

私が平田高校に赴任してきたのは５年前のことです。

　平田高校では、学級担任とサッカー部の顧問としての思い出がたくさんできました。

　学級担任としては、３年間持ち上がって担任させてもらい、今年は１年１組を担任させてもらい、生徒のみなさんとの毎日の会話がとても楽しかったです。

　サッカー部では、リーグ戦での県リーグ２部昇格をはじめとして、毎年恒例の広島・岡山遠征、三瓶合宿など楽しい思い出もたくさんできました。

　今後は、生徒の皆さんで力を合わせてもっともっと魅力のある平田高校にしていってください。

安田　忠司（英語科）

ありがとうございました。（注：今まで全ての学校でこの１言でした。）